

社会福祉学部

<平成30年 帰国子女・中国人引揚者等特別選抜>

小論文（配点 100 点）

【出題意図】

理解力、問題発見力、思考力、論理性、表現力を中心として適切に論述できる力を問う。

【解答例】

1

言葉とは、単に他者とのコミュニケーションに必要ということではない。誰にも会わず一言も話さない日でも、私たちは日々、心の中で無意識に言葉を使っている。

本文で、ガンガンと大きな足音立てて降りていく女性に対するイライラが、「カスタネットガール」という種族だという言葉を知ったことで、イライラしなくなるばかりか、むしろ面白く感じられたとある。このことは一つの言葉を知ったことで見方が変化したのであり、世界が変わったわけでもなく、世界像が変化したということである。つまり、人間は言葉の介在無しで世の中のあらゆることを認識することはできないのである。(269 字)

2

読書とは、楽器やスポーツと同じように趣味の範囲というのは、そのとおりかもしれない。楽器がなくともスポーツがなくとも、そして読書がなくても、生きていくことはできる。

しかし、言葉そのものについて考えてみた場合、それも趣味の範囲なのかということではない。他者とのコミュニケーションに必要というだけでなく、誰にも会わず一言も話さない日でも、私たちは日々、心の中で無意識に言葉を使っている。

また、私たちが一つの共通の世界に生きているというのは錯覚で、本当は一人一人の内なる世界像を生きているに過ぎず、言葉はそのことに深く関わっている。

ガンガンと大きな足音立てて降りていく女性に対するイライラが、「カスタネットガール」という種族だという言葉を知ったことで、イライラしなくなるばかりか、むしろ面白く感じられたという。これは、「カスタネットガール」という一つの言葉を知ったことによって世界像が変化したのである。

この例からも、読書という行為だけが内なる言葉を養うわけではないが、本が言葉の、他者の世界像の塊であり、読書に特別の意味を見出したいくなるのだと筆者は述べている。

次に私が考える読書の意味について述べる。読書とは、私にとって未知の世界に触れることである。あらゆる書物には、私が決して体験できない世界がある。現在、私自身関わっ

ている人たちは非常に限られた範囲のものであり、それを越えた他者との関わりを求めるには、読書ということを通して実現できるのである。そこにある言葉の意味を考え吟味し、物事の見方や考え方を知り、自己の視野を広げていくことができる。

これは、知的好奇心を高めていくということにもつながる。過去に存在した人へ会うことはできないし、時代をさかのぼることもできない。しかし本を読むことを通して、心の中で様々な人に出会い、体験することができる。

これが私にとっての読書における大きな意味である。

(795 字)